

山形大学の皆さんへ

このような文章を山形大学の皆さんにお届けしなければならないことは学長として無念でなりません。しかし、今回の山形大学におけるセクシュアルハラスメントの問題がマスコミ等によって報道され、皆さんが色々と心配されている状況下にあつて、学長としてこの問題に対してどのように考えているのかを明らかにする必要があると思います、筆をとった次第です。

まず、山形大において度重なるセクシュアルハラスメントを起こしてしまったことは誠に遺憾なことであり、被害を受けられた方を始め、関係各位に深くお詫び申し上げます。また、率先して社会における倫理的な規範を示さなければならない大学においてかかる不祥事を起こしてしまったことに対し、学長として責任を痛感しております。

さらに、各々のセクシュアルハラスメントに対する大学の措置が、結果的には適正なものでなかったことも反省しなければならないと思います。大学の規律を守るために、職員の処分という制度が設けられているわけですが、セクシュアルハラスメントの発生が適正な時期に学長に報告されなかったために、加害者に対する適正な処分をすることが出来ず、大学の規律を守り得ませんでした。このことは、今回のセクシュアルハラスメント問題に関して大学が社会に対して十分な説明責任を果たし得ない状況を招いた原因となっています。このような状況を勘案して今回のセクシュアルハラスメント発生の管理責任を問うために私を含め関係者を処分いたしました。

今回のたび重なるセクシュアルハラスメント発生の社会的責任を果たすための今後の最も重要な方策は、セクシュアルハラスメントの再発防止に向けた山形大学の体制を早急に整備することだと考えております。現在、学外の有識者にも参加いただく山形大学セクシュアルハラスメント緊急対策協議会（仮称）の設置を急いでいるところです。ただ、このような会議で問題を検討しただけでは問題の根本的な解決は得られず、山形大学の全体の構成員の意識改革がさらに必要なのだと思います。

そのためには、この問題について、山形大学の構成員全体が真摯な論議を展開し、問題の根本的原因を解明するとともに抜本的な対策を確立していくことが求められていると考えております。そのような検討の上に立って、大学全体がセクシュアルハラスメントの根絶に向けた取組を展開していくことによって初めて真のセクシュアルハラスメント防止体制が築かれるのだと思います。

以上申し上げたような取組を学長が先頭に立って展開することにより、セクシュアルハラスメントを山形大学から無くし、さらには未来に向かって力強く進んでいく山形大学の樹立を目指したいと考えております。山形大学の構成員全員の皆さんの御理解と御協力をお願いする次第です。

平成16年10月8日

山形大学長

仙道 富士郎